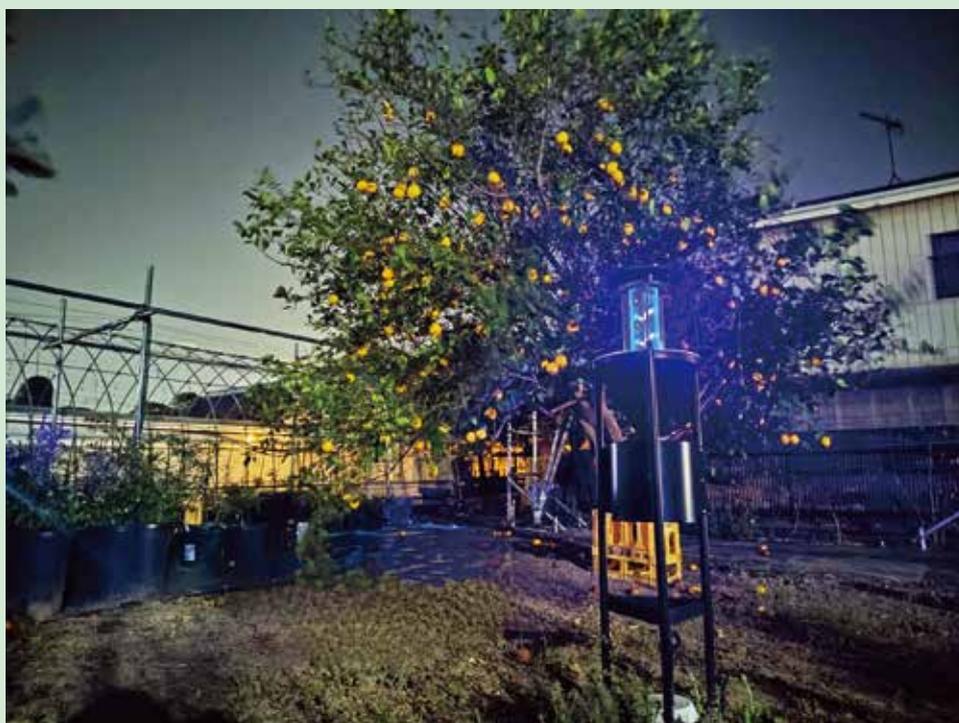


- ◆微生物資材によるネコブセンチュウ類対策
- ◆羽村愛情野菜の取組支援～ブランド化をすすめる5品目の導入支援～
- ◆イチゴの花芽検鏡について
  - ◆花苗・鉢花における天敵カブリダニ類の利用
  - ◆ナシ栽培における総合的病害虫・雑草管理（IPM）技術
  - ◆新規就農者の経営を支援します～新規就農者育成総合対策事業～
  - ◆一〇メモ：コガネムシトラップについて
  - ◆一〇メモ：日の出町のスイートコーン競技会
  - ◆お知らせ



●東京都農業振興事務所ホームページで  
最新号とバックナンバーをご覧ください  
<https://www.agri.metro.tokyo.lg.jp/>



区部農業改良  
普及センター

# 微生物資材による ネコブセンチュウ類対策

ネコブセンチュウ類の対策は多くの品目で課題となっていますが、生産者からは、化学合成農薬に頼らない方法とともに、なるべく時間と労力をかけず簡単に行える方法が求められています。

今回、普及センターでは、化学合成農薬を使用せず、かつ、簡潔に行える対策として、微生物資材に着目し、JAと協力して検証を行いました。

## 資材及び展示ほの概要

資材は「ハーベストライズN」を使用しました。施用方法は、播種・定植前の全面土壌混和と、定植後の株元散布の2つの方法がメーカーより示されています。今回は2つの施用方法について展示ほを設置しました（表1）。調査は、ネコブセンチュウ類によるキュウリの根の被害状況調査と、ベールマン法によるオクラ株元の土壌中のネコブセンチュウ類密度計測を行いました。

表1 各展示ほの資材施用区概要

	展示ほ①	展示ほ②
品目	キュウリ	オクラ
施用方法	全面土壌混和	株元散布
施用時期	定植直前 (4月中旬)	播種後1か月半 (6月上旬)
施用量	3kg/a	10g/株

## 展示ほ結果

展示ほ①では、「ハーベストライズN」の施用区でネコブセンチュウ類によるキュウリの根の被害が無施用区より少ない傾向があるという結果になりました（表2、写真）。

表2 展示ほ①の根の被害程度

	被害程度 (株数)				
	0	1	2	3	4
資材施用区	0	2	2	0	1
無施用区	0	0	1	2	2

\* 各区5株調査、被害程度は目視で0（無）～4（最大）。



写真 展示ほ①の根の状態  
(左：資材施用 右：無施用)

\* 写真提供：JA東京中央

展示ほ②では、オクラの根の被害は、「ハーベストライズN」の施用区において、無施用区よりもわずかに少なくなった程度でした（データ省略）。しかし、土壌中のネコブセンチュウ類の密度は、同資材の施用区が少ない結果となりました（図）。

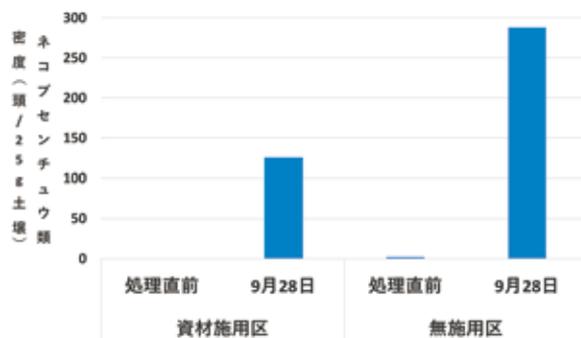


図 展示ほ②のネコブセンチュウ類密度の推移

## まとめ

今回の展示ほから、「ハーベストライズN」を使用した土壌改良を行うことで、無施用の圃場と比較して、ネコブセンチュウ類による被害や土壌中のネコブセンチュウ類の密度が少ないという結果が得られました。根の被害については、特に全面土壌混和による施用で少ない傾向でした。普及センターでは、今後もJA等関係機関と連携を取りつつ、各種方法を検討してネコブセンチュウ類対策を進めていきます。

西多摩農業改良  
普及センター羽村愛情野菜の取組支援  
～ブランド化をすすめる5品目の導入支援～

JAにしたま生産部会野菜部羽村支部では、市内で販売される野菜と差別化するため、平成30年から市内農産物直売所へ出荷される一部品目を「羽村愛情野菜」として認定し、ブランド化に取り組んでいます。「羽村愛情野菜」はこれまでにトンネルを活用した早熟栽培エダマメ・スイートコーン、高糖度キャベツ、高糖度ニンジン、寒締めハウレンソウの5品目が認定されています。

JAにしたま生産部会野菜部への  
活動支援

同部会では生産者、JA職員、普及センターで定期的に圃場巡回を行い、ブランド化に向け情報提供、意見交換を行っています。普及センターでは、部会員相互の圃場巡回における助言、新品目・品種や資材の提案、展示ほでの収穫物調査等を行い、羽村愛情野菜の生産拡大の活動支援に取り組んできました。

トンネル早熟栽培エダマメと  
スイートコーン

部会では、トンネル早熟栽培エダマメとスイートコーンは、市内で生産される同品目よりも早く出荷することを目的として取り組んでいます（写真1）。エダマメの品種は「陽恵、おつな姫、神風香」で、スイートコーンの品種は「ほしつぶコーン、ミルクィシュガー85」等です。普及センターは3年間栽培の改善に取り組み、トンネル除去と追肥のタイミング等により品質が向上しました。



写真1 トンネル早熟栽培の圃場巡回と収穫物

## 高糖度シリーズ

高糖度キャベツと高糖度ニンジンは、糖度の基準を設け、高糖度シリーズとして販売を行っています。キャベツの品種は「彩音、冬甘月」を導入し、時期に合わせて糖度8.0～8.5%以上のものを認定しています。

高糖度ニンジンは根の付け根から5cmの位置で糖度を測定し、糖度9%以上のものを認定しています。5年間栽培した結果、「優馬、アロマレッド」の2品種で糖度が上がりやすことがわかってきました。また、普及センターでは、発芽率向上のための資材として「わらいらず」を提案し、導入の支援に取り組んでいます。

## 寒締めハウレンソウ

令和6年度、普及センターでは新たな品目として、直売所で人気商品である寒締めハウレンソウの栽培を提案し、試作しました。9415の黒マルチに10月15日頃播種をして、1月下旬から収穫できました。品種は「まほろば、寒味・極」の2品種を用い、「寒味・極」は葉色や株姿が良く優れた品種であることがわかりました。栽培にあたり、播種粒数や病害虫防除等について指導しました。

写真2  
寒締めハウレンソウの  
試作と販売の様子

## 今後に向けて

普及センターは、現在認定中の品目、栽培方法等の定着拡大に向け支援を行っています。さらに令和7年度は生産者の要望を受け、新たな品目のブランド化に向けて自然薯の試作支援に取り組みます。今後も生産者との連携を強め、「羽村愛情野菜」のブランド力強化を推進していきます。

南多摩農業改良  
普及センター

# イチゴの花芽検鏡について

近年の気候変動に伴う気温上昇は、農業生産に様々な影響を与えています。イチゴ栽培でも、春季からの夏日の頻発や夏季の猛暑、残暑の長期化は、育苗期の生育停滞や花芽分化の遅れ・ばらつきを起こしています。このような状況下で定植が行われ、結果として収穫開始時期が予定と乖離する状況が発生しています。そこで適期定植を行うために必要な花芽検鏡について紹介します。

## 花芽分化・花芽検鏡とは

イチゴにおいて花芽分化は、栄養成長から生殖成長に株内外が変わっていく、重要な転換点となります。花芽分化は、一般的に平均気温が約25℃以下、日長が約13時間以下に加え、低窒素栄養条件で誘導されます。昨年の東京の場合、気温・日長ともに9月上旬には条件を満たしています。

花芽分化では、誘導条件を満たして約2～3週間後から花芽の形態的变化がみられます。この形態的变化はいくつかのステージに分かれています(図)。ステージの移行は約3日で進み、一般的に形態的变化がはっきりと分かる果房分化期を定植時期の目安とします。このため、平年の東京の気候では、花芽検鏡は9月中旬頃から行うと良いでしょう。ただし、現在普及している品種の中で「かおり野」は、花芽分化が早いため、9月上旬から花芽検鏡を行いましょう。

ステージの名称							
未分化期	肥厚初期	肥厚中期	肥厚後期	果房分化期 (2分化期)	ガク片形成期	雄ずい形成期	雌ずい形成期

↑  
形態的变化がはっきりする境

図 花芽分化のステージ

実際の花芽検鏡は、葉数や花芽のステージを調べる作業となります。顕微鏡や針等を使用し

て、クラウン(根元)部分を剥き、花芽を着色して観察していきます(写真1、2)。



写真1 検鏡画像(肥厚初期)



写真2 花芽検鏡の様子

## 花芽検鏡で分かることと注意点

葉数は、出蕾(肉眼で蕾を確認可能)までの概ねの日数を、花芽のステージは定植が適期かどうかを確認できます。花芽検鏡の結果、花芽が果房分化期以降の場合、早期の定植が必要となります。定植の遅れは、芽無し(成長点が消失した状態)に繋がります。例年の場合、年内は約7日で1枚の葉が展開し、出蕾から約30日で収穫となります。花芽検鏡の結果とこれらの数字から大体の収穫開始時期の算出が可能となります。

花芽検鏡を行う際には、①苗質(クラウン径の大きさ)が平均的な苗を選ぶ、②一回の検鏡では、3～5株を確認する、③品種毎に確認する、④確認した株に肥厚後期以前の株があった場合は、3日以上空けて再度実施する、以上の4点の注意が必要です。また、近年の猛暑の影響で、同じ品種でも採苗時期が約2週間ずれた苗は、花芽の生育に差が出ています。そのため、別々に花芽検鏡をすることを推奨します。

## まとめ

気候変動が進む中で、花芽分化はより不安定になっていくと考えられます。花芽検鏡は、花芽分化を確認した上で定植を行い、予定通りの収穫を行うためにも、大切な作業となります。花芽検鏡が必要な方は、実体顕微鏡等を用いて指導しますので、お近くの普及センターまでご相談ください。

北多摩農業改良  
普及センター

# 花苗・鉢花における 天敵カブリダニ類の利用

近年、化学合成農薬だけに頼らない病害虫防除の重要性が改めて認識されています。今回、北多摩地域で施設栽培される花き類で行った天敵製剤による防除対策を2事例を紹介します。

## ミヤコカブリダニ製剤の効果

東久留米市の鉄骨ハウスのガーベラ栽培では、例年ハダニ類による被害が問題となっていたことから、令和4年3月29日に「アフーム乳剤」(カブリダニ類放飼の1週間前まで使用可)を散布し、その後、4月8日にミヤコカブリダニ製剤「ミヤコバンカー」を設置しました(写真1)。



写真1  
ミヤコバンカーの設置状況

ハダニ類は増加傾向であったことから、4月23日に殺ダニ剤「ダニサラバフロアブル」(天敵に影響が少ない)を散布したところ密度が下がりました(図1)。一方、ミヤコカブリダニはダニサラバ散布後も増加し、設置から3週間程度でガーベラ上への定着が認められ、出荷終了までハダニ類の発生を抑制したと考えられます。また、生産物はハダニ類の加害による葉や花の傷が少なく、出荷を早めることもできました。

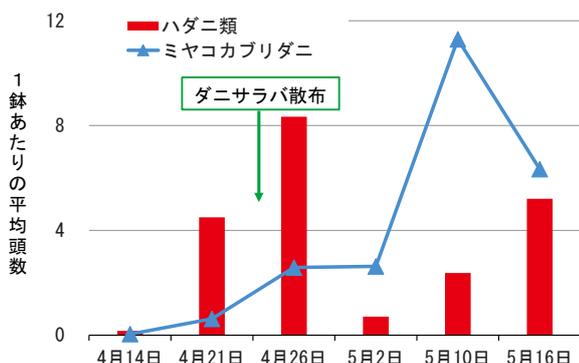


図1 ガーベラ鉢上のミヤコカブリダニとハダニ類の推移

## スワルスキーカブリダニ製剤の効果

令和5年3月22日、アザミウマ類の防除を目的として、東久留米市の鉄骨ハウス内で栽培されるガーベラにスワルスキーカブリダニ製剤「スワルスキープラスUM」を設置しました(写真2)。



写真2  
スワルスキープラスUMの設置状況

調査期間中、アザミウマ類の発生は天敵を放飼しなかった別のハウスでは多く確認され、このハウス内ではわずかだったことから、天敵農薬の効果があったものと考えられました(図2)。

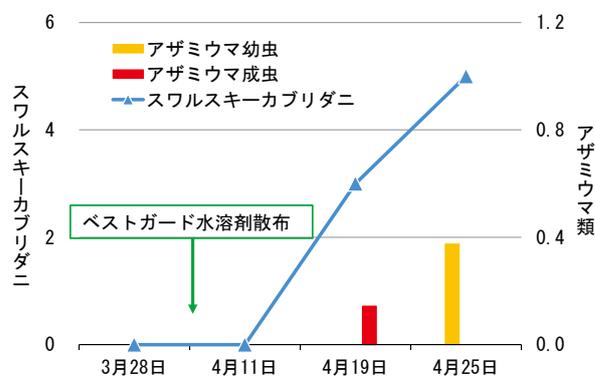


図2 ガーベラ1鉢あたりのスワルスキーカブリダニとアザミウマ類の平均頭数の推移

天敵農薬を導入することで農薬代は増加しましたが、アザミウマ類の防除に成功したことでアザミウマ被害花や被害葉を除去することがなくなり、結果として出荷が早まりました。出荷が早まったことにより、灌水や防除などの作業が必要なくなり、労働時間の削減にもつながりました。

## まとめ

いずれの天敵製剤も害虫の数を少なく抑えることで、品質を向上させ、出荷も早める効果がありました。普及センターでは今後も合理的な防除技術の普及に取り組んでいきます。

振興課  
技術総合調整担当

# ナシ栽培における 総合的病害虫・雑草管理 (IPM) 技術

安定した農業生産の実現のため、様々な手段を講じ、総合的に病害虫や雑草を管理するため、相互的病害虫・雑草管理（Integrated Pest Management：以下、IPM）という考え方が全国で取り組まれています。これは、農作物に対してだけでなく、それを取り巻く人や環境へのリスクや負荷の低減を行うものでもあり、住宅地に囲まれた園地も多い東京では、重要な考え方になります。

今回はその中で、果樹（ナシ栽培）で取り組まれている技術を紹介します。

## IPMの重要性と考え方

IPMは、各種防除手段を適切に組み合わせ、当該作物の病害虫・雑草の発生増加を抑える技術です。IPMの実践は、①病害虫の発生生態や作型などの情報に基づいて予め組み入れる予防措置、②病害虫・雑草の発生状況の把握による防除要否及びそのタイミングの判断、③その結果に基づき病害虫・雑草の発生を経済的な被害が生じるレベル以下に抑えるために行う防除、の3つの単位で構成されます（図1）。IPMを導入することにより、化学合成農薬の使用削減、土着天敵に対する影響の軽減と有効活用、薬剤抵抗性病害虫の発生回避など、環境に対する影響が少なくかつ安定した農業生産が可能となります。

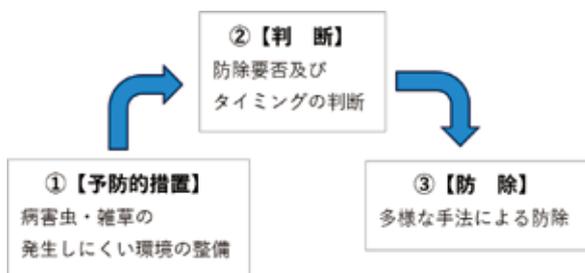


図1 IPMの体系

## 果樹における導入の実際

IPMで様々な技術、資材が導入されており、それらを目的に応じて選択し、組み合わせるこ

とで、それぞれの圃場、経営に合った管理を行います。ナシで大きな問題になるハダニ類防除は、天敵の利用が増えており、天敵製剤、選択性殺虫剤、株元草生に加え、土着天敵を組み合わせ使用しています。しかし、天敵利用時の選択性殺虫剤の使用により、シンクイムシなどの防除が難しくなっている事例もあります。そのため、シンクイムシ、ヤガ類防除に黄色LED灯の設置活用も増えており、総合的な防除体系が生まれつつあります。

表1 ナシのIPM実践ポイント

項目	ポイント
圃場	病害虫の発生減の除去／樹形管理（通風や採光）／適切な肥培管理／防鳥網・多目的防災網／防風ネット
苗木	耐病性品種／無病苗
資材	果実袋／雨よけ栽培／光反射シート
発生状況	発生予察情報／トラップによる発生予察調査
防除	冬季防除／適切な量・方法での散布／飛散防止対策／ローテーション散布／天敵、選択制農薬／光防除（黄色LED）

## 導入時のポイント

天敵によるハダニ防除は、ハダニの発生が多くなると天敵と選択性殺虫剤だけでは抑えきれなくなります。まずは、ハダニが発生しにくい圃場整備を行い、適期に天敵を導入します。そして、モニタリングを継続して、経済的に被害が出るようであれば、化学農薬を使用するなど、ポイントでの判断が必要になります。また、地域で協力して取り組むことにより防除効果が高くなる技術もあります。

## まとめ

新技術開発、既存資材の改良等が進んでおり、各普及センターも、展示ほ等を活用してIPM技術の確認、普及を行っています。導入の際は、普及センターなどへご相談ください。

農業振興課  
普及担当

# 新規就農者の経営を 支援します

～新規就農者育成総合対策事業～

東京農業は、都市化に伴う生産環境の悪化や農業者の高齢化、後継者の不足など大変厳しい状況があります。一方で、1,400万人の消費者を抱えており、そのメリットを活かした都市農業ならではの新たな農業経営を展開できる可能性を秘めています。

近年では、農業後継者の就農だけでなく、農外からの就農も増えてきているものの、新たに農業経営を開始した方、特に農外から就農した方にとっては、農地の確保や農業機械・施設整備、種苗や農業資材を一から調達する必要があり、経営初期段階において大きな負担となっています。

東京都では、こうした新規就農者を対象としたさまざまな支援を行っています。今回は、新たに農業経営を開始した方の初期段階の経営安定を支援するため新規就農者育成総合対策事業について紹介します。

## 【①～③共通要件】

- 就農開始時の年齢が原則50歳未満
- 前年の世帯全体（同居又は生計を一にする配偶者、父母及び子）親子及び配偶者の範囲）所得の合計が原則600万円以下

## 【①経営開始資金（市街化区域以外）・都市地域農業経営開始資金（市街化区域内）】

交付額：年間最大150万円、最長3年間

主な交付要件

- 認定新規就農者であること
- 経営開始資金の場合は、地域計画に位置付けられている又は農地中間管理機構から農地を借りている
- 親元就農の場合は、就農後5年以内に事業承継し、かつ新規参入者と同等の経営リスクがあると認められること

報告義務

- 交付期間中は、毎年2回の就農状況報告の提出が必要
- 交付終了後5年間、毎年2回作業日誌の提出が必要

新規就農者育成総合対策事業には、①新たに経営を開始する者に資金を交付する経営開始資金・都市地域農業経営開始資金、②農外からの新規就農者の就農時の移住を支援する新規就農者移住支援、③就農に向けた研修を受ける者に資金を交付する就農準備資金などがあります。

なお、交付要件を満たさなくなった場合は、交付の中止や補助金の返還の対象となります。

詳しい交付要件等については各区市町村にお問い合わせください。また、農業機械の購入・施設整備の支援等につきましては、各区市町村並びにJAにご相談ください。

## 【②新規就農者移住支援】

交付額

- 単身で移住 30万円、世帯で移住 50万円
- 島しょに移住する場合は1.5倍を交付

主な交付要件

- 独立・自営就農前後1年以内に就農先の市町村に移住又は研修を受けるために移住し当該市町村で独立・自営就農
- 国及び都が実施する移住・定住に係る他の支援もしくは本事業による支援を受けたことがないこと

## 【③就農準備資金】

交付額：年間最大150万円、最長2年間

主な交付要件：

- 都が認定した研修機関で研修を受けること  
東京農業アカデミー八王子研修農場  
農林総合研究センター農業技術研修園芸コース
- 研修終了後1年以内に就農すること
- 親元就農の場合は、就農後5年以内に事業承継し、かつ新規参入者と同等の経営リスクがあると認められること

報告義務

- 交付期間中は、毎年2回の研修状況報告の提出が必要
- 交付終了後6年間、毎年2回就農状況報告の提出が必要

## 一口メモ

### コガネムシトラップについて

葛飾区の果樹生産者は、光でコガネムシ類を誘引して捕獲する装置「エコ虫（チュウ）トラップ」を導入しています。コガネムシ類の成虫は葉を食害し、幼虫は根を食害します。特に幼虫は土中で食害するため、被害が大きくなるまで気づきにくく厄介な害虫です。この装置は、日没後、自動で光源部が点灯し、4時間後に消灯する仕組みです。太陽光で充電されるため環境に優しく、可動式で軽量（約6kg）のため、圃場での移動が可能です。誘引された成虫は、光源部下の捕獲かごに落ちて、かごの外に出られません。

普及センターが生産者圃場で捕獲状況を調査したところ、2か月で200匹以上のコガネムシ類成虫が捕獲されました。



導入された「エコ虫トラップ」

## 一口メモ

### 日の出町のスイートコーン競技会

同町はスイートコーン生産が盛んで、現在収穫期を迎え、町内の共同直売所はスイートコーンを求める人で賑わっています。今年で4回目となる「MOROKOSHI-1グランプリ」には、毎年多くの生産者が出品し、収穫物の品質等を競い合っています。競技会の審査は、出荷日の早さを競う「早出し部門」、3本の穂の重さを競う「重量部門」、甘さを競う「糖度部門」の3部門が行われ、審査後は生産者同士で情報交換が行われています。競技会場である「日の出町ふれあい農産物直売所ぐりむ」、同じJAあきがわの「秋川ファーマーズセンター」、五日市ファーマーズセンターあいな」でも販売されています。ご賞味ください。



MOROKOSHI-1グランプリでの審査の様子

## お知らせ

### ◎東京都工農産物認証申請受付

受付期間：令和7年9月1日（月）～30日（火）

お問合せ・ご相談：各農業改良普及センター、振興課農業環境担当

※電子申請による受付が行えます。詳しくは8月上旬に東京都農業振興事務所HPに掲載いたします。

### ●表紙写真：葛飾区の光誘引トラップ

### ◆お問い合わせは下記まで・・・

農業振興事務所区部農業改良普及センター  
区部農業改良普及センター城北分室  
区部農業改良普及センター城南分室  
西多摩農業改良普及センター  
南多摩農業改良普及センター  
北多摩農業改良普及センター  
振興課技術調整担当

☎03-3678-5905

☎03-5946-9326

☎03-5969-9781

☎0428-31-2374

☎042-674-5971

☎042-465-9882

☎042-548-5053

とうきょう普及インフォメーション134

令和7年7月1日発行

印刷物規格表第1類  
登録番号 (6)10

編集・発行 東京都農業振興事務所振興課  
立川市錦町3-12-11

☎042-548-5053

FAX 042-548-4871

印刷 明誠企画株式会社

☎042-567-6233